

平成29年度 第1回下野市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成29年8月17日（金）午後3時00分～午後4時30分
- 2 場 所 下野市役所 3階 教育委員会室
- 3 出席者 下野市長 広瀬寿雄

(下野市教育委員会)

教育委員長	永山伸一
委員	三橋明美
委員	熊田裕子
委員	石嶋和夫
教育長	池澤勤

(事務局関係)

総務部長	山中庄一
総務人事課長	清水光則
総務人事課主幹	大口貴史
教育次長	坪山仁
教育総務課長	小谷野雅美
学校教育課長	海老原忠
教育総務課長補佐	伊澤仁一
教育総務課主幹	古橋栄一
学校教育課長補佐	田澤孝一
学校教育課主幹	西松治彦

4 傍聴人 1名

5 議 事

- (1) 南河内中学校区小中一貫教育推進協議会への諮問に対する提言について（第二次提言）
- (2) その他

小谷野教育総務課長	<p>ただいまより、平成29年度第1回下野市総合教育会議を開催いたします。</p>
広瀬市長	<p>はじめに広瀬市長からご挨拶いただきたいと思います。</p> <p>皆さんこんにちは。平成29年度第1回の下野市総合教育会議ということで、委員の皆様には教育委員会会議に引き続き、ご出席いただきありがとうございます。また、先ほど、南河内中学校区小中一貫教育推進協議会の会長である石嶋教育委員より、「下野市立南河内中学校区義務教育学校基本構想(案)」として第二次の提言をいただいたところです。</p> <p>本日は朝から、陸上の全国大会に出場する国分寺中学校の生徒たちの訪問、広島派遣団の中学生たちによる報告、高松市の子どもたちと本市の子どもたちとの昼食会等、様々な子どもたちとの交流がありました。本市の子どもたちがどのような活動をし、将来に向けて頑張っているのかを知るにつけ、非常に嬉しく感じるとともに、毎年、夏休みが明けてからの報告が楽しみになっているところであります。</p> <p>今回、南河内中学校区小中一貫教育の第二次提言につきましては、これからの本市の教育の在り方や子どもたちの将来像を作っていくにあたり、私たち大人は環境を作るため、学校、子どもたち、そして子どもたちの家庭がしっかりと意識レベルを共有し、同じ方向を見ていきたいと思っています。そのような体制の中で、子どもたちに多くの選択肢を持ってもらい、自由闊達に勉強できる環境を作っていくということにつきまして、皆さんにご協議いただいているところであります。</p> <p>また、同時に私たち大人も子どもたちとともに育っていけるような状況にしていきたいと考えていますので、皆様方にはご苦勞をおかけすると思いますが、様々な意見を交わし、同じ方向性を見つめながら進んでいきたいと考えていますので、よろしく願い申し上げ、冒頭の挨拶といたします。</p>
小谷野教育総務課長 永山教育委員長	<p>続きまして、永山教育委員長よりご挨拶をお願いいたします。</p> <p>平成29年度第1回下野市総合教育会議ということで、広瀬市長にはお忙しいところ、また朝から子どもたちのためにありがとうございます。</p> <p>本日は、南河内中学校区小中一貫教育推進協議会からの第二次提言ということで、小中一貫教育につきまして市長を交えて、議論していく会議となります。</p> <p>物事というのは、見る角度によってだいぶ違うと思います。当然、保護者から見る角度、子どもたちから見る角度、先生方から見る角度、同じ事象を見ても見える姿が全く違ってくると思います。一方から見ると正当でも、他方から見ると非常に理不尽であったり、乱暴だったりする場合があります。私たちは、そのような過去の経緯や学校を取り巻く環境を多面体として見ていかなければならないと考えています。その中でも、私たち教育委員会の立場から真正面に置くべきことは、これから育っていく子どもたちにとって、どういった学校が最善の環境なのかを考えていくことだと思います。</p> <p>事によれば、その立場を通して見る目が、もしかしたら矛盾を呼ぶかもしれませんが、二律背反した矛盾というものも乗り越えていかなければならない矛盾であると思います。矛盾が綺麗に解消され、新しいものが生まれていくのではなく、矛盾を矛盾のままにした状態だとしても、この状態を</p>

小谷野教育総務課長	<p>乗り越えられる知恵こそが新しいものを生み出していくのではないかと思います。本日は市長を交え、十分に議論を尽くして新しいものを生み出していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>
広瀬市長	<p>総合教育会議では広瀬市長が議長となり、議事進行を行うことになっています。以下、広瀬市長の進行でよろしくお願いいたします。</p>
海老原学校教育課長	<p>それでは、総合教育会議の議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。早速次第に従いまして、議事に入らせていただきます。</p> <p>(1)南河内中学校区小中一貫教育推進協議会への諮問に対する提言について(第二次提言)を議題といたします。事務局より説明をお願いします。</p>
西松学校教育課主幹	<p>昨年度の2月に開催されました総合教育会議におきまして、義務教育学校を導入すること、学校施設は一体型とすること及びその施設は現南河内中学校内に設置すること等につきまして承認をいただきました。今回はこれを受けまして、義務教育学校の基本構想(案)を南河内地区小中一貫教育推進協議会において作成いたしましたので、ご協議いただきたいと思います。</p> <p>以下、「南河内中学校区義務教育学校基本構想(案)」に基づいて、下野市の小中一貫教育の基本方針、南河内中学校区義務教育学校基本構想の具体的な内容について説明を行う。</p> <p>具体的な今後のスケジュールにつきましては、西松主幹より説明させていただきます。</p>
広瀬市長	<p>以下、「南河内中学校区小中一貫教育推進スケジュール(年度別)」に基づき、現時点における平成28年度から平成34年度までのスケジュールについて説明を行う。</p>
永山委員長	<p>ただいま事務局より、南河内地区小中一貫教育推進協議会の「第二次提言」につきまして説明がありました。特に、5ページからの基本構想の内容につきまして、検討いただきたいと思いますということですので、今後のスケジュール等も踏まえながら、各委員からお一人ずつご意見を伺いたいと思います。</p> <p>基本構想等、非常に良くできていると思いますので、この方向で私たちも進んでいきたいと考えています。「理念に基づく4本の柱」は、バランスがとれていて大変素晴らしいと思いますが、複数クラスになった後、子どもたちが切磋琢磨できるメリットにつきましても、構想の中に謳っていく必要があるのではないかと思います。</p>
三橋委員	<p>また、なぜ施設一体型なのかというメリットを提示してありますが、一般的なメリットだけではなく、南河内中学校区の義務教育学校が他の義務教育学校と一味違った何か特別なもの、例えば「このようなことに力を入れていきます」ということを構想に謳っていければ良いのではないかと思います。私は、(3)英語教育に注目しており、この学校だったらこの部分の力が伸びるから、学区が異なっていたとしても入りたいと思えるような学校を作っていければと考えています。</p> <p>学校教育の理念にある「歴史の上に未来を拓き」という部分は、まさに南河内地区にふさわしいと思い、素晴らしいと感じました。また、4ページの「本市における小中一貫教育の学びや育ちの姿」の中に、学力・体力の向上がありますが、学力だけではなく体力向上のためにも、施設の充実が大切だ</p>

	<p>と思います。本日の教育委員会会議でも、中学生の県大会の結果を聞きましたが、改めて文武両道は子どもたちにとっても大切だと感じました。</p> <p>基本構想の8ページに「低学年用プールを新設する」とありますが、高学年の児童が入るプールは、低学年の児童にとって深いものだと思いますので、ぜひ、構想どおりの設置を検討していただきたいと思います。</p> <p>また、3ページの「小中一貫教育のコンセプト」の中には、「家庭」、「地域」、「社会」それぞれを「つなぐ」となっていますので、この「つなぐ」というコンセプトが実現できるように進めていただきたいと思います。</p> <p>施設一体型のメリットに関して、もし南河内中学校区の保護者だったら、ここに住んで良かったと思えるようなアピールがあれば良いと思いました。</p> <p>また、PTAにつきましても、小学校と中学校が一体となるため、1つのチームとしてより良い教育支援ができるという点を強調できるのではないかと感じました。</p> <p>英語教育につきましては、中学校の英語の先生が小学校の先生に助言を行うこともできるので、小学校の先生は安心して英語活動を行うことができるのではないかと思います。これは英語教育だけではなく、様々な教育活動においても中学校の先生の助言により、小学校と中学校が一体となって、子どもたちの教育を行うことが可能であることを強調した方が、保護者の方にも受け入れやすいのではないかと考えています。</p> <p>ふるさと学習につきましては、南河内地区はとて歴史のある地域であることから、地域と学校を「つなぐ」ことに関連付けた具体的な活動についても構想の中にいれた方が良いのではないかと思います。</p>
熊田委員	<p>先ほど、熊田委員からふるさと学習の具体的な活動につきまして言及がありましたが、具体的な内容は基本計画の中に明記されるものだと思います。基本構想と基本計画の具体性をどの程度バランスよく盛り込んでいくか、結構難しい問題だと思っています。基本構想があまりにも具体的すぎると、かえって基本計画が縛られてしまう恐れがあると思います。基本構想では全体像を大きく捉え、核となる部分だけを抑えたものになっており、推進協議会では皆、熱心に話し合い、貴重なご意見も多くいただいたところがありますので、基本構想としてはこの内容で良いのではないかと考えています。</p>
石嶋委員	<p>私が一番期待をしていることは、7ページの「(2) 学校規模・教職員組織」にあるように、28のクラスを教員数37名で対応でき、教頭先生2名にご協力いただければ、39名という多くの先生方が子どもたちに関わることができるということです。いつもというわけにはいきませんが、これだけの教員が組織的に関われば、これだけの成果があげられるということが示すことができれば、他の地区にも教員の連携という部分が効果的に反映されるようになることを期待しています。</p> <p>まず、施設一体型で一番可能になることは、児童に対して教科担任制が行えるということだと思います。基本構想の6ページに、「義務教育学校の学年段階の区切り」として、学びのステージを表で示してありますが、5、6年生は「一部教科担任制」となっています。これは控えめな表現となっておりますので、必要な部分に関しては全部教科担任制をとっていくことも可能</p>
池澤教育長	

となります。将来的には、小中両方の教員免許を持った先生を配置し、全員が小学校と中学校の担任をもつことができるように組織作りをしていきたいと考えています。習熟度別の授業を展開していく中で、子どもたちがどこでつまづいてしまったのかが分かった場合、教科担任制の中で個別指導を行うことも可能となります。このようなシステムをとることができるのは、この施設一体型だけだと思っています。

また、下野市の独自性という部分につきましては、日本一の学力と体力の向上を目指したいという強い思いがあります。今年、南河内中学校のテニス部は、県大会で優勝を果たしましたが、これは小学校からの積み重ねの集大成だと捉えています。もちろん、学力や体力面だけではなく、子どもの芸術面におきましても伸長が見込まれるのではないかと考えています。

さらに、1～9年間、同じ場所で学びができるということは、「私の故郷はここである」という意識が強くなることであり、約1300年という歴史や伝統に触れることで、地域を語り、郷土を愛せる子どもを育成していくことができると考えています。これは学校だけでは難しいと思いますので、学校運営協議会を設置し、地域の皆さんの力をお借りしながら1つの学校を運営していければと思っています。

義務教育学校における教職員の組織体制につきましては、校長1人に任せるのは負担が大きくなってしまいますので、指導力や経営力をもった退職校長を「小中一貫教育コーディネーター」として任命し、相談役として週4日勤務で配置しようと考えています。

ここまでのご意見を伺っていると、「ここが最初の突破口として始まりますよ」ということが実感できました。下野市の全体像を見て、特に南河内中学校区におきましてはこのような特徴をもって進んで行きたいという様々な思いがしっかりと基本構想に表れていると思います。

義務教育学校が設置されるということは、小学校と中学校の子どもが一緒になるというだけではなく、その親も一緒になるという角度で学校はアプローチしていくことが必要になってくると思います。そして、下野市としても学校に任せきりではなく、家庭と一緒に子どもたちを見守っていく姿勢を貫いていきたいと考えています。

家庭があつてはじめて学校があるので、学校のことを家庭にフィードバックできるという体制が、教育の根幹になると思います。子どもたちは、家族の誰かと一緒に学ぶという流れの中で学びの習慣が身につきますので、そのような家庭の体制が定着すればありがたいことですし、下野市では特徴のある教育環境を作っていきますので、先生方にもご協力いただきたいと思ます。

塾に行かせないと、自分の子どものレベルが分からないというのは、少々寂しいと思います。家庭と学校を「つなぐ」ためには、塾に行かせるということ以前に、学校でどんなことを勉強したのかを親が子どもと一緒に振り返ることが大切であり、家庭での学習状況を担任の先生とぎくばらんに話せるような状況になればありがたいと思います。

他にご意見等がありますか。

基本構想につきまして補足させていただきます。

広瀬市長

広瀬市長
石嶋委員

<p>広瀬市長</p>	<p>6ページの「施設一体型義務教育学校で実現する具体的な姿」につきましては、一見具体的には見えない部分があると思いますが、かなり思い切った部分もあります。「一貫した学習づくりや生活習慣づくりによる家庭教育力の向上」では、家庭との連携強化で終わらずに、さらに一步進んで学校と家庭が一体となった学習や生活習慣作りまでを目指しています。</p> <p>基本構想同様、基本計画につきましても、協議会委員の皆様から協力的に様々なご意見いただいておりますので、これまでのご意見を踏まえながら、上手くまとめていければと思っています。</p> <p>他に意見等がありますか。(特になし)</p> <p>大方この形で適しているとなれば、このとおりに決定したいと思いますが、総合教育会議として、この第二次提言書のとおり決定してよろしいでしょうか。(全委員承認)</p>
<p>古橋教育総務課主幹</p>	<p>議事(1)につきましては、異議無く承認されました。</p> <p>続きまして、議事の(2)その他に移ります。事務局から何かありますか。学校適正配置推進協議会における会議の経過と今後のスケジュールにつきまして説明させていただきます。</p>
<p>広瀬市長</p>	<p>以下、配付資料に基づき説明を行う。</p> <p>ただいま、事務局より報告がありましたが、これにつきましてご意見、ご質問等がありましたらお願いします。</p>
<p>石嶋委員</p>	<p>配付資料の「学校適正配置推進協議会における国分寺西小学校の再編[移動]までのスケジュール(案)」とは別に、国分寺小学校と国分寺西小学校との子どもたちの交流等につきまして、別途計画書の作成はされているのでしょうか。</p>
<p>古橋教育総務課主幹</p>	<p>第1回目の会議の中で、各小学校の校長から小中一貫教育実践研究学校としての年間計画につきまして報告を受けており、委員の皆様にご理解をいただいたところです。</p>
<p>石嶋委員</p>	<p>地域説明会等の際には交流状況と再編計画はセットで提示する形の方が保護者にとっても分かりやすく、子どもたちへの配慮も伝わりやすいと思います。</p>
<p>広瀬市長</p>	<p>石嶋委員ご指摘のとおり、当事者である子どもたちがどのような形で国分寺小学校に入っていくのかについて説明がないと、保護者としては割り切れないと感じてしまう恐れがあります。</p>
<p>小谷野教育総務課長</p>	<p>既に、臨海自然教室では国分寺小学校と国分寺西小学校の子どもたちが一緒に学習や体験を行ったところですが、今年度後半から来年度の部分につきましては、夏休みに入り具体的な交流事業を検討していくことになっていますので、先生方にはその計画書を作成していただいている状況です。</p> <p>交流につきましては、体育や音楽などできるところから行っていくとの話を聞いています。国分寺運動公園等でゲームを行ったり、国分寺西小学校での里山活動に国分寺小学校の児童が参加したりするなどの計画も検討しているようです。今後、新たなスケジュールが決まり次第、ご報告させていただきたいと思っています。</p>
<p>広瀬市長</p>	<p>両校の保護者としては、子どもたちがいかに馴染んでいるかというところを聞きたいのではないかと思います。説明資料は、単純なタイムスケジュール</p>

永山委員長	<p>ルにとどまっているので、子どもたちの気持ちの流れとスケジュールが揃っていることが大切だと思います。今後は資料の提示についても注意をさせていただきたいと思います。</p> <p>前回の総合教育会議におきまして、「2校の交流を進めていきます」との説明があったと思いますが、今回の会議では引越しや閉校の準備から入っているところに違和感を覚えます。提示された資料が、今後文書として残っていく際に、この資料だけが前面に出てしまうと、誤解を与えかねないと思います。決してそのような意図で作成したわけではないと思いますので、2年間の子どもたちの交流の様子を見ながら、進めていただきたいと思います。</p>
三橋委員	<p>私も委員長のご指摘のとおりだと思います。配付資料のスケジュールの下端に「8月26日国分寺小学校保護者に対する国分寺西小学校との再編等説明会」とありますが、この保護者に対して説明する際には、きちんとした資料を提示した上で説明していただきたいと思います。</p>
古橋教育総務課主幹	<p>(ここで、追加資料として、第1回学校適正配置推進協議会において説明を行った「平成29年度国分寺中学校区小中一貫教育実践研究グランドデザイン(案)」と「H29年度国西小と国小との小小連携計画(案)」の資料を配付する。)</p>
小谷野教育総務課長	<p>7月に行われた第1回学校適正配置推進協議会の際に、委員である学校の先生から、国分寺中学校区の小中一貫教育と国分寺小学校、国分寺西小学校との小小連携についてご説明をいただきました。現在、国分寺中学校では小中一貫教育実践研究のグランドデザインの作成を進めているところです。それに併せ、両小学校の小小連携につきまして、基本方針を定めて実践をしていくこととなります。具体的な連携教育の活動は、先ほど申し上げましたものの他、合同の縦割り遠足やキンボールスポーツ大会に向けての交流練習や交流試合等があると聞いております。学校に任せきりにならないよう、私たちも十分にに関わり、子どもたちの交流について着実に進めていきたいと考えています。</p>
永山委員長	<p>1つの指揮命令系統として、こちらから「学校間の交流を図って下さい」と促し、それから各学校が具体的案を出してくるという流れが良いのではないかと思います。</p>
小谷野教育総務課長	<p>先の協議会におきましても、委員の中から交流があまり進んでいないのではないかというご意見もいただきました。校長が委員として入っていますので、その意見は十分に理解されていると思います。交流の状況につきましては、保護者にとっても自治会にとっても気にかかる点だと思いますので、十分に配慮してまいります。</p>
永山委員長	<p>発言の仕方によっては、違った見方をされてしまいますので、資料の有無に関係なく、きちんと子どもたちの交流の部分につきまして、計画の中にきちんと盛り込んでしかるべきことだと思います。</p>
広瀬市長	<p>委員の皆様からのご意見を伺い、本当に知りたいのは、子どもたちの気持ちなどがどのように熟していくのか、お互いに熟するための活動計画がどのようなステップを積み重ねて到達点へともっていきけるのが大切であると思いま</p>

<p>池澤教育長</p> <p>広瀬市長</p> <p>小谷野教育総務課長</p>	<p>す。後で振り返った時に、ここはタイムスケジュールと上手くマッチしていたね、ここは子どもたちの思いが予想よりも届いていなかったから、もう少しこの事業は待ってみるなども、協議会で諮っていく必要があると思います。気持ちは一朝一夕では作れないので、そこをしっかりと捉えて、進めていただきたい。</p> <p>また、子どもたちは交われば交わるほど、子どもたち同士の関係が密になると思います。再編という形になった時、国分寺小学校の児童が、国分寺西小学校の児童の気持ちを考えられるくらい、交流を進めていただきたいと思います。</p> <p>先の協議会では、校長からの交流計画についての説明を行ってから、事務局の説明を行っております。しっかりと子どもたちの交流を行っていきますので、今後は誤解を生じないように対応していきたいと考えております。</p> <p>最後に、委員の皆様から何かありましたらお願いします。(特になし)</p> <p>それでは、以上で議事を終了いたします。活発なご意見ありがとうございました。</p> <p>長時間にわたり、慎重審議ありがとうございました。以上をもちまして、平成29年度第1回総合教育会議を終了させていただきます。</p>
---	--